

# 基礎基本の力を身につけ、 コミュニケーション能力を高めていくために

三重県鈴鹿市立鈴西小学校教諭 佐竹 博胤

## 1. はじめに

私が昨年まで勤務していた鈴鹿市立庄内小学校では、学校をあげて児童のコミュニケーション能力の向上に取り組んできた。様々な実践を積み重ね、ある程度その成果を検証することができたので、ここに紹介したい。

庄内小学校は、三重県の北部、鈴鹿山脈のふもとに緑豊かな自然に恵まれたのどかなところにある。創立100年を越え、地域に根ざした学校である。毎年秋には「庄内祭」といって、授業参観と教育講演会をひっくるめた保護者や地域の方々との交流行事を行っている。昼食には稲作体験学習で収穫したもち米で作った山菜おこわなどを参加者全員で味わう。また、総合的な学習の時間には、「SETIME (Syna's Enjoyable Time)」と称した地域学習や国際理解学習を行っている。

各学年が20数人前後なので、常に担任の目がひとりひとりの子どもに行き届き、しっかりと見守っている中で子どもたちは学校生活を過ごしている。反面、学年の児童数が少なく単学級のため、クラス替えがなく、閉鎖的でもある。そこで、縦割り班活動を充実させて、清掃活動や児童会活動など、学年を越えた子ども同士の関わり合いができるような取り組みを続けてきた。しかし、日々の生活の中では、なかなか子どもたちが自分から進んで物事に働きかけたり、人と交流したりする機会は少なかった。

こうした実状をふまえて、朝の学習や教科の指導等の中で、基礎基本の学力の定着を図

りながら、進んでいろいろな人と交流したり、自分の思いや考えをまとめて発表し合ったりして、考えを深め合えるような取り組みをしたので紹介したい。

## 2. 日々の実践

### 朝学習での取り組み

子どもたちは毎朝、8時30分から15分間、自主的な学習に取り組んでいた。内容は各学年に任されていたが、私の担任した6年生では次のような内容で、学級委員や国語係、算数係を中心に、子どもたちだけで自主的な学習をするように促した。

月 曜	全校一斉読書タイム
火 曜	ドリル学習 (国語)
水 曜	ドリル学習 (算数)
木 曜	ドリル学習 (国語)
金 曜	ドリル学習 (算数)

### 朝の会でのスピーチ

朝の会では、子どもたちが自己表現力を高めていけるように、毎朝ひとりずつ交代でスピーチをさせた。例えば、「行事（遠足・運動会・修学旅行など）の感想」「本日の友達とは」「自分の短所」「自分なりの勉強方法」「残り半年となった小学校生活」といったテーマで取り組んだ。

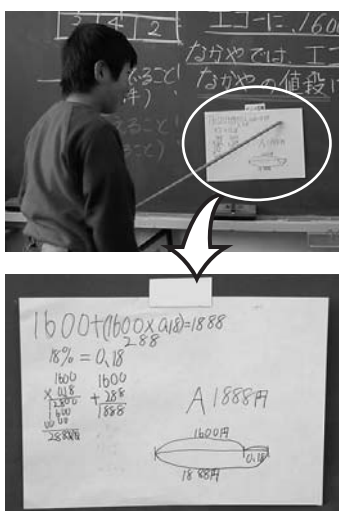
### 帰りの会での漢字・計算2問テスト

帰りの会では、新しく習う漢字や算数の学

習内容の理解と定着を図るために、できる限り小テストを行った。問題数が多すぎると子どもの意欲を削いでしまうので、やる気を持続させられる量として毎回2問の問題を黒板に書き、それをノートに書き写してやらせた。これだと準備がいらすず、子どもたちが気軽にできる。また、できた人から直接担任に持つてくるので、漢字が理解できているか、計算力が身につけているかなど、個人的な状況がとてよくわかるし、採点しながら会話を楽しむことができる。わからないからといってすぐに友達に聞くのではなく、自分でしっかりと考えさせて、自分のわからない点やつまづきを見つけてさせるためにも効果的であった。

### 算数の授業での取り組み

算数の授業では、自分なりの解き方・考え方を見出し、それを人に説明させるといった方法をとった。



①文章問題をきちんと理解するために、問題を読んで、わかっている点(条件)と答える点(課題)をはっきりさせる。(下線を引いて文章を整理する)

日々の授業で使う教材や教具。隣のクラスや隣の学校のあの先生は、一体どんな使い方をしているのでしょうか？  
このコーナーでは、気になる教材活用術を紹介します。

- ② 八つ切りの白紙に、自分なりの解き方を絵・図・数直線などを使って表し、文章の数量関係を算数的に表す。
- ③ 式に表し、答えを導き出す。
- ④ 発表する人の用紙を黒板に貼り、3〜4名にそれぞれの自分なりの解き方の説明をしてもらおう。
- ⑤ クラス全員で、発表者の解き方の共通点と相違点、わかりやすい方法等を見つけて話し合う。

### 国語・社会・理科等の授業での取り組み

国語や社会や理科の授業では、子どもたちに授業中の発表の仕方、説明の仕方、意見の表し方を身につけさせてきた。みんなの前で自分の意見を言う時には、単に単語を羅列するのでなく、筋道を立てて話すようにさせた。また、「言葉はキャッチボールであり、お互いにパスしあうものだ」と教え、人の意見や発表をしっかりと聞き、それに対する自分の意見を発表するというように、互いに学び合う学習に取り組んだ。

- ① 指名されたらまず返事をして、先生だけに言うのではなく、みんなに向けて発表する。
- ② 「私はこう思います。それは…だからです」というように、なぜそう考えるのか自分なりの理由を説明する。
- ③ 「私は〇〇さんに反対（賛成）です。それは…だからです」というように、人の発表をしっかりと聞き、それに対して自分の意見を持てるようにする。

### SETime (総合的な学習)での取り組み

SETimeには、毎月一度、ALT等による英語活動を行っていた。

6年生では、「やさしい英会話を楽しもう」ということで、子どもたちが将来実際に出会うであろう状況を設定して、会話を中心に取り組んだ。1学期には、外国の方に道をきかれた場合の答え方や、ファーストフードショップでの注文の仕方を、ロールプレイをしながら学んだ。9月は、「修学旅行先で外国人観光客とコミュニケーションをとって、一緒に写真を撮ろう」という目標を定めて、必要な会話を練習した。10月初旬の修学旅行では京都の金閣寺や清水寺で、子どもたちは覚えていった言葉で、ドイツやオーストラリアからの観光客の方々と進んでコミュニケーションをとることができた。見知らぬ外国人に、自分からコミュニケーションをとっていくには大人も少し勇気がいる。子どもたちがこれまでの経験を生かして、進んで外国人と交流できたことは評価できるものである。



### 3. 様々な実践を通して子どもたちは…

このように、子どもたちの実態から目標を定めて、様々な取り組みをしてきた。では、このような実践が子どもたちにどのような効

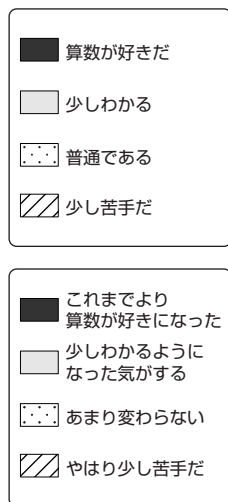
果をもたらしたか、その成果と課題について4月と11月のアンケート結果を見比べて検証したい。

※アンケート結果について

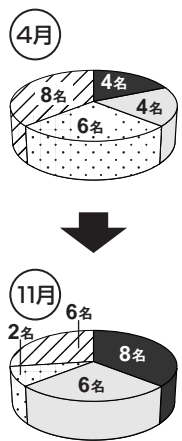
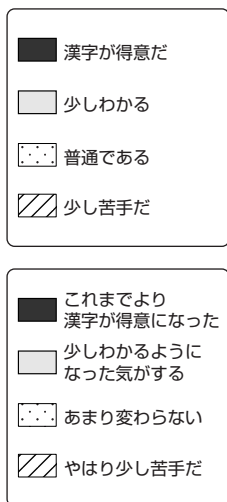
6年生の児童数・22名  
(女子11名・男子11名)

### 朝学習でドリルに取り組んで

〈算数についての意識調査〉



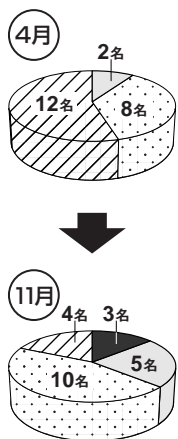
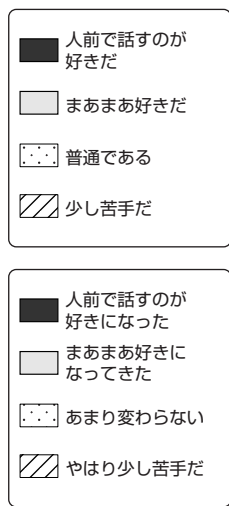
〈漢字についての意識調査〉



朝の学習でドリルに取り組むことで、計算や漢字に自信を持てるようになった子や、以前よりわかるようになったと意識した子が半年で2倍近くに増えた。

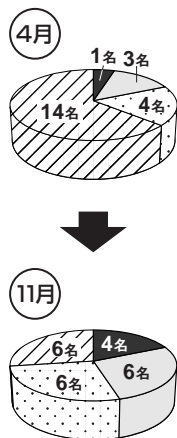
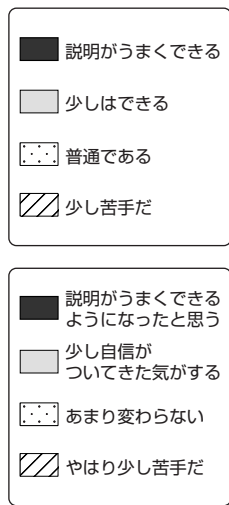
実際の点数で見ると、漢字テストの結果では、4月当初と比べ、7月ごろから平均点が約10点上がった子が2名、5点上がった子が4名いた。また、算数小テストの結果では、約10点上がった子が3名、5点上がった子が3名いた。

### 朝の会のスピーチをして



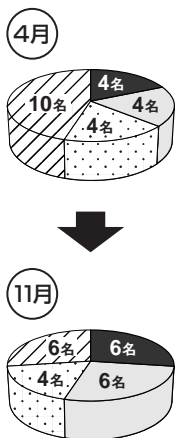
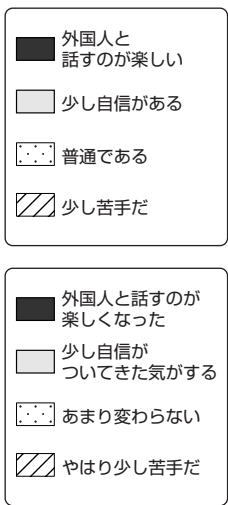
朝のスピーチに何度も取り組んできて、みんなの前で話をする機会を経験することによって、人前で話すことがだんだんと好きになってきた子の割合が増えた。話すことが好きになった子とまあまあ好きになってきた子を合わせると、7ヶ月間で格段の増加である。

### 授業で説明や発表の機会を多く設けて



何度も算数の授業で解き方を説明したり、国語や理科や社会の授業で意見を言ったり発表したりするという経験を通して、説明の仕方に慣れ、自分なりにうまく説明できると思う子や、人前で説明することに自信をつけたと思っている子が25倍に増えた。

### SETtimeに取り組んで



SETtimeでのALT等の先生や外国人とのコミュニケーション活動について、外国

人と話すことが楽しいと思う子と少し自信がついてきたと感じる子は、合わせて8名だったのが12名に増えた。

### 4. 終わりに

子どもたちに、進んで自分の思いを表現したり、人と関わっていったりするコミュニケーション能力をつけさせることは、数十年前に初めて担任を持って以来、ずっと課題として私の中にあっただが、コミュニケーション活動が校内研修の主題に設定されたこともあり、幸いにも全職員で研修する機会を持つことができた。そして、様々な方法や実践を通して、子どもたちがどう変わっていくかを、少なからず検証できた。

正直、漢字や計算の能力といった基礎基本の学力の変容については、どの程度の効果がでているか正確なところはわからない。しかし、朝学習や帰りの会での小テスト、授業中の取り組みなどによって、少なからず基礎基本の学力を定着させることはできたであろう。基礎基本の学力の定着は、わかる授業・楽しく臨める授業に結びつき、子どもたちの意欲的な学習活動につながる。前述の実践を通じて、子どもたちに自ら学ぼうとする意欲を持たせることはできたと言える。

また、様々な機会や場面を設定することで、子どもたちの興味や関心を引き出し、本来人間が持つ「話す・聞く・表現する」能力を伸ばしながら、「自ら進んで交流し、関わっていかうとする意欲」を育むことができた



▲のびのびと意見を交換する子どもたち。子どもたちのこれから期待したい。

のではないかと思う。

私が子どもたちに身につけさせたいのは、人と人とのふれあいの中で相手をわかって、知ろうとする意欲であり、行動力である。同じ人間同士、互いの思いさえあれば、必要なコミュニケーション能力は高めていけるはずである。

今後、子どもたちには、これからの社会で何が必要であり、大切であるのかに気づき、基礎基本の学力を生かしながら、個人の持つ能力を最大限に伸ばして欲しい。

また、私たち教師も、自己の感性を豊かにし、積極的にいろいろな活動を取り入れていくこととする前向きさを持つと同時に、自らが幅広い視点に立って意識を高め、子どもたちとともにさらにコミュニケーション能力を高めていけるように努力していきたい。

## OFが新学社のホームページから見られるようになりました!

<http://www.sing.co.jp/of/>

1 これまでの記事をパソコン上で見ることができます。

授業に使えるサポート教材  
SchoolNetwork  
(スクールネットワーク)

小学校の先生方のための情報誌  
OF (オフ)

1 これまでの記事

2 新規配本のお申込  
バックナンバーのお申込

3 原稿募集のお知らせ

小学生のための  
教育リンク集

個人情報について

このたび新学社発行の教育情報誌 OF  
た!

OF(オフ)とは?

新学社の教育情報誌「OF」OPEN FORUM 21

OF オフ VOL.10

安全対策  
子どもの

すぐに役立つ! 授業アイデア

現場の先生方に授業実践や授業アイデアを紹介していたひお役立てください。

※タイトルをクリックすると、自動的に記事のPDFにジャンプ  
※PDFをご覧になる際には、Adobe Readerをお使いください  
Adobe Readerのダウンロードはこちら

※PDFにある著者の先生方の学校名は、「OF」に掲載時の算数

- > Vol.10 [6年:平均] 「平均」の学習における理想化
- > Vol.09 [5年:割合とグラフ] 「活用する力」を育てる
- > Vol.08 [4年:2けたでわるわり算] わり算
- > Vol.07 [3年:時間と時刻] 時間と時刻の授業

CLICK!



- 2 新規配本のお申込、バックナンバーのお申込ができます。  
(新規配本は、本誌巻末のハガキでもお申込いただけます)
- 3 原稿を募集しています。.....  
先生の授業アイデアをお寄せください。  
OFに掲載させていただく場合は、事前に編集部よりご連絡させていただきます。

原稿募集フォーム (※印の項目はすべて必須となっております。)

お名前【印】:	姓【印】	名【印】	※姓
フリガナ【印】:	姓【印】	名【印】	※名
ご勤務校【印】:	選択してください (都道府県)		
メールアドレス【印】:	姓	〒	小学校 ※姓角
ペンネーム:	※姓角 姓角		
ペンネームを希望される方は、ご記入ください			
性別:	性別	※姓角	
職科名:	職科名	※姓角	
授業アイデア:			

※100文字以内でお申し込みください。